

文部科学大臣 中川 正春 様

日本天文協議会 会長 海部 宣男  
（財）日本眼科学会 理事長 石橋 達朗  
（社）日本眼科医会 会長 高野 繁

## 2012年5月21日の金環日食に関する要望書

—— 多くの児童・生徒や市民に安全に日食を観察してもらうために ——

貴職におかれましては、平素から理科教育・天文教育の振興にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

さて、2012年5月21日（月）には、日本全域を含む広い範囲で日食が起こります。なかでも、日本の人口のおよそ3分の2（約8千万人）が居住する九州南部・四国の大部分・紀伊半島から関東付近にかけての帯状の地域では、太陽がリング状に輝く「金環食」が起こります。また、日本のその他の地域でも太陽が大きく欠ける「部分食」となります。

この金環日食は、おおむね午前6時すぎに始まり、午前9時すぎに終わります。金環食になるのは午前7時半頃で、金環食の継続時間は国内で一番長い地点で5分間程度です。日本での金環食は、1987年に沖縄地方で見られて以来25年ぶりです。特に、首都東京で金環食が見られるのは1839年以来173年ぶりのこととなります。このため、日食が近づくにつれ、全国でも大きな話題になると思われます。

日食は顕著な天文現象であることから、その観察は理科学習への強い動機付けになります。また、宇宙における地球・月・太陽の位置や運動を実体験できるという非常に貴重な学習機会です。しかし、観察対象が極めて明るい太陽であり、不適切な観測によって網膜症などの重篤な眼障害が生じる可能性があります。また、今回の金環日食は平日（月曜日）の始業前の時刻に起きることから、この日食を観察する際には、さまざまな観点からの配慮が必要です。

私たちは次のことを要望いたしますので、学校や社会教育機関が準備できるように早急な通知など、特段のご配慮をお願いいたします。

- 一、日食が登校時間や登校前の在宅時間と重なるため、教員、児童・生徒、保護者に対して、太陽をそのまま直視するなど不適切な日食観察には危険が伴うことを全国に周知していただきたい。
- 二、学校を始めとするさまざまな教育機関において、始業前の時刻に日食観察会などが安全かつ円滑に開催できるよう、その環境を整えていただきたい。
- 三、学校や教員研修施設、社会教育施設などの教育機関において、日食やその安全な観察方法についての講習会・研修会が事前に開催されるよう、ご指導とご助言をいただきたい。

なお、今回の金環日食に関する情報や安全な観察方法等は、以下の(1)及び(2)をご参照ください。また、日本各地における正確な日食現象の予報は、(3)で知ることができます。

- (1) 2012 年金環日食日本委員会 <http://www.solar2012.jp/>  
(2) 国立天文台 金環日食の情報 <http://naojcamp.mtk.nao.ac.jp/phenomena/20120521/>  
(3) 国立天文台日食各地予報 [http://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/koyomix/eclipse\\_s.html](http://eco.mtk.nao.ac.jp/koyomi/koyomix/eclipse_s.html)

〔連絡先〕

日本天文協議会「2012 年金環日食日本委員会」事務局

〒381-8550 長野県長野市徳間 716

独立行政法人 国立高等専門学校機構 長野工業高等専門学校 大西浩次研究室

電話 026-295-7027

財団法人 日本眼科学会 事務局

〒101-8346 東京都千代田区猿樂町 2-4-11-402

電話 03-3295-2360

社団法人 日本眼科医会 事務局

〒105-0014 東京都港区芝 2-2-14 一星芝ビルディング 7 階

電話 03-5765-7755

以上.

---

〔付記〕

日本天文協議会は、世界天文年 2009 の成果を引き継ぎ、日本の天文研究・教育・普及・アマチュア活動が一体となって、天文と科学の理解を日本の社会に広げるための合同組織です。2010 年 9 月 9 日に発足しました。

構成団体

社団法人 日本天文学会、自然科学研究機構 国立天文台、宇宙航空研究開発機構、天文教育普及研究会、日本プラネタリウム協議会、日本公開天文台協会、日本天文愛好者連絡会、星空を守る会